

ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL: 052-652-5511
<http://www.chubuh.johas.go.jp/> FAX: 052-653-3533

目次: ご挨拶…P1

私の臨床メモ…P2

病院からのお知らせ…P3

地域医療連携室からのお知らせ…P4

ご挨拶



院長 佐藤 啓二

立春とはいえ寒さが残る今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルス感染症について、オミクロン株による第8波が猛威をふるう中、重症者数、死亡者数などからみると感染者数は第7波を確実に超えていると考えられます。亜種であるXBB.1.5の蔓延も危惧されるところです。さらにインフルエンザの流行も加わり、医療関係者には大変厳しい冬となっております。

当院ではコロナ専用病床28床を運用しており70%以上の稼働率となっておりますが、なんとか2次救急病院によるコロナ輪番の役割を果たすことができいております。

令和4年5月にメディカルサポートセンターを立ち上げました。また、円滑な地域連携を進めるべく、地域連携システムを導入しました。ご紹介いただいた患者さんについては、受診、入院、退院の連絡に加えて、入院中の経過等できる限り詳しくご紹介元に情報提供ができる体制を構築してまいりました。また、C@RNA connectを利用した診察予約枠は、整形外科等を含めて16診療科に拡大し、検査予約枠も拡大しました。

至らない点もまだあるかと思いますが、できる限り先生方との連携を密にし、患者さんにとって速やかな診断・治療を通じた早期社会復帰が可能となるよう、地域医療連携体制の充実を図りたいと考えております。

外来患者さんについては、不必要な待ち時間を短縮できるよう、受診手続きの動線及び会計手続き等について改善を進めております。今まで以上に利用しやすく、患者さんの満足度が上がる病院を目指して、職員一同努力してまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



私の臨床メモ（専門医による治療紹介）

その6

瞼（まぶた）の治療と 肩こりの関係

形成外科部長 加藤 友紀



「瞼が下がると肩がこる」とは、まるで「風が吹けば桶屋が儲かる」の話のようですが、これらは最新の研究では関連があることが証明されています。

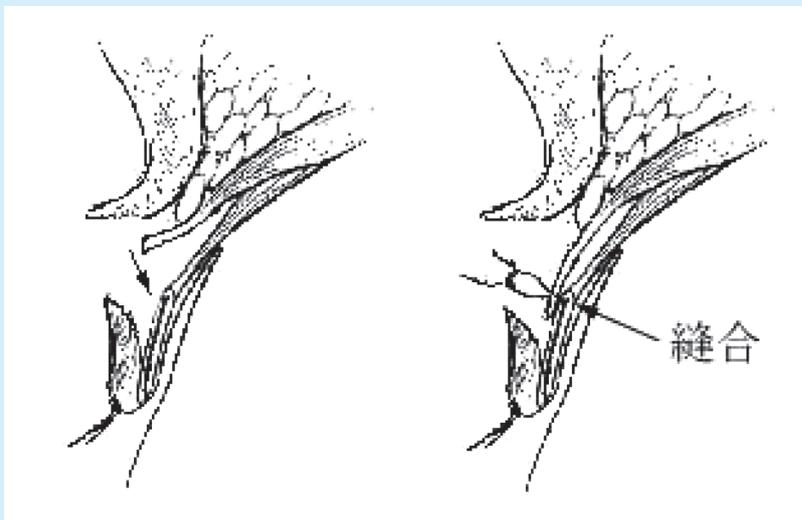
瞼が下がると前頭筋を使って瞼を上げようと額のしわができ、あごを突き出す姿勢をとるため肩から背中に広がる僧帽筋に負担がかかり筋緊張性頭痛や肩こりが生じます。また瞼にはミュラー筋という交感神経支配の筋肉があるため、瞼が下がると交感神経刺激信号が反射の受容器を通して脳に送られ全身の交感神経の緊張や覚醒刺激が続き、そのため疲労感なども生じてくるというのです。

眼瞼下垂手術は局所麻酔にて日帰りで行います。術後は楽に瞼が上がるようになり、頭痛や肩こりなどの症状が改善します（頭痛や肩こりの原因が他にある場合は期待した効果が出ないこともあります）。一重瞼の人は二重瞼になります。

手術後約1週間はかなり瞼が腫れますが、コロナでリモートワークの機会が増えるなどして人と顔を合わせる機会が減っている今が手術のチャンスともいえます。

高齢者に多い病態ですが、年齢とともに誰でも徐々に瞼は下がってきます。コンタクトレンズ使用歴が長い人やアレルギーでよく目を擦る人は、若くても下がりやすいと言われています。

見えづらいなどの症状がある場合は、白内障や視力低下だけではなく、眼瞼下垂によるものかもしれませんので、その際には形成外科へのご紹介をいただきましたらと思います。今後とも地域連携医の先生方のご支援ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



病院からのお知らせ

外来診察室の場所が変わりました

◎腎臓内科・リウマチ膠原病科……1階から2階へ移動しました。

◎呼吸器外科……1階の中で移動しました。

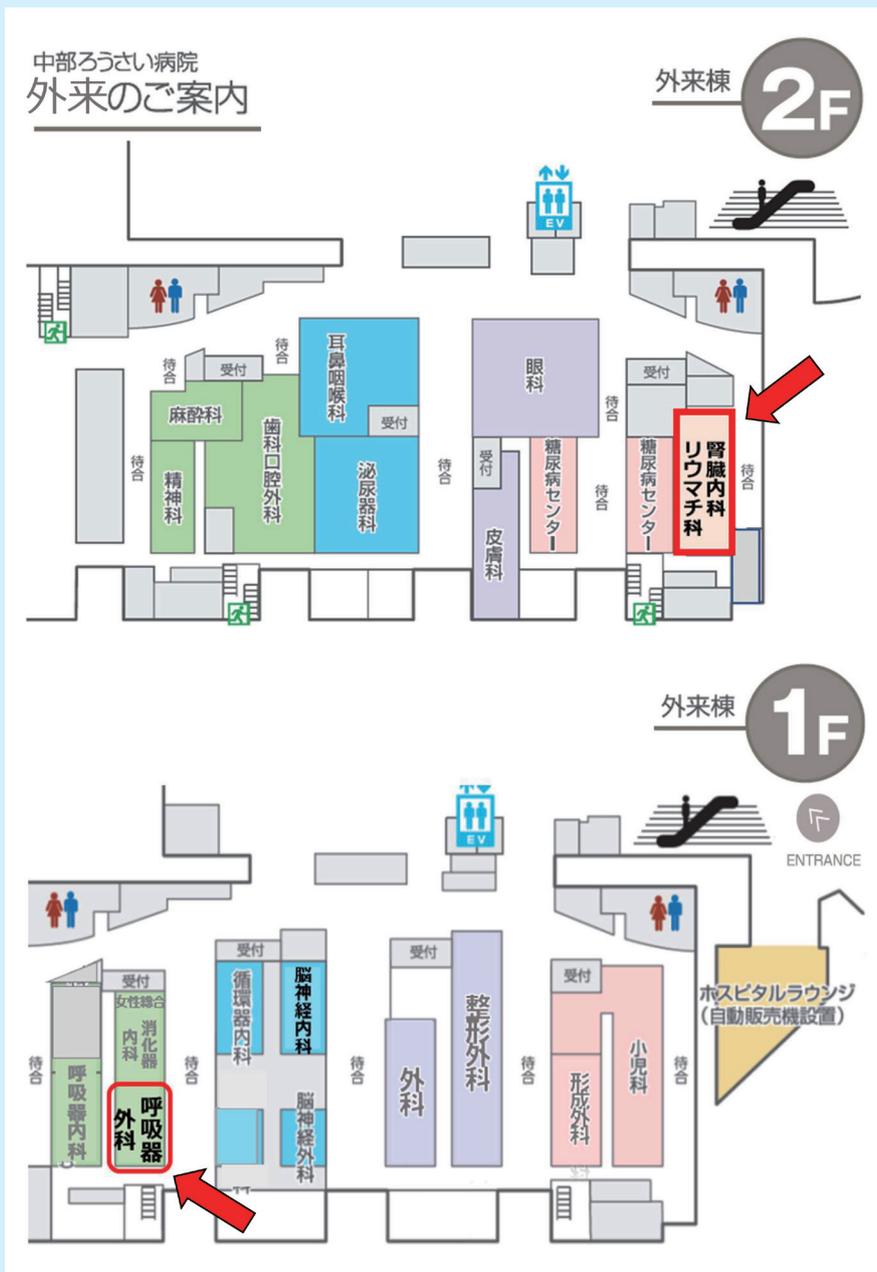
患者さんが集中する待合スペースを改善するため、診察室の再編を実施しました。詳細は、マップをご確認ください。

診療科名が変わりました

◎神経内科が「脳神経内科」
に変わりました。

場所は従来と変わりません
(1階)。診療科の名前のみ変更となりました。

連携医療機関等、医療関係者の皆様におかれましては、ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。これからも、患者さんにより良い診療を提供していけるよう取り組んで参ります。



医師交代

☆退職 (令和4年10月31日付け)

鈴木 早也香 循環器内科医師

地域医療連携室からのお知らせ

～令和4年度 病病・病診連携サービス実態調査の結果について～

地域医療連携サービスの向上を目的として、「病病・病診連携サービス実態調査」を実施し、連携医療機関の皆さまからいただいた評価を数値化いたしました。

実施方法及び結果については以下のとおりとなりましたので、ご報告いたします。ご協力いただきました先生方には、改めて御礼申し上げます。

【実施期間】令和4年11月7日（月）～12月15日（木）

【調査方法】直近1年の紹介件数上位211の医療機関に対し調査票を郵送。同封した返信用封筒にて回収。

【結果】有用率(全体評価) 82.5%（昨年度に比べ、1.6%増加）

全体評価としては、昨年度とほぼ変わらない評価となりましたが、詳細項目である「診断結果の報告状況」の満足度につきましては、昨年度に比べ、全体的に高い評価をいただくことができました。これは、令和4年7月に地域連携システムを新規導入する際に行った、報告書類の様式や作成の流れについての見直し等の取組が結果として表れているように感じております。

今回の調査結果につきましては、病院全体で共有を図り、改善に向けた取組を皆様にフィードバックすると共に、今後の地域医療連携のサービス向上に努めて参ります。

なお、調査を依頼した連携医療機関様につきましては、項目別の結果を改めて送付させていただきますので、ご確認いただければ幸いです。

メディカルサポートセンター

(平日 8:15～19:30)

(TEL) 052-652-5950

(FAX) 052-652-5716

センター長：丸井 伸行（副院長）

センター室長：鈴木 美代子（看護副部長）

連携課長：内村 一郎（医事課長）

連携係長：酒井 伸郎（入院係長）

事務担当：今枝 智子・富満 一毅・安井 正幸

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

編集後記 暦の上では立春ですが、厳しい寒さが続いております。防寒衣類（具）、暖房器具を確保し、寒冷環境に身体が長時間さらされないようにすることが重要です。一方で、感染防止の観点から、換気にも留意する必要があります。当院では、換気に留意しながら、快適な室温を保つよう努めております。連携医療機関の皆様におかれましては、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

広報委員長：神経内科 亀山 隆

編集担当：神経内科 上條 美樹子 歯科口腔外科 鶴迫 伸一

事務局 新田 晃子 今関 信夫

